

# NMSH Topics 28 VOL.

April 2019

今月の 院長のイチオシ

心臓血管外科

## 他では治らなかった不整脈も確実に治療

### 低侵襲なハイブリッド心臓血管治療

当院では心臓外科黎明期の1964年から心臓手術を手がけ、以降、各領域で専門性の高い治療を行っています。特に不整脈の外科治療は豊富な症例数と先進的な研究成果で世界的に知られています。心房細動では1989年に日本初の外科手術を行って以来、約700例の治療経験を有し、自他ともに認めるトップランナーです。治療成績も群を抜いており、他の施設ではなかなか治らなかった患者さんも数多く治療しています。

近年、冠動脈疾患に対するカテーテル治療が普及し、他の施設ではバイパス手術は減少傾向にありますが、心臓血管集中治療科や高度救命救急センターのある当院ではカテーテル治療が困難な症例に対する緊急手術が増加しています。もちろん、その90%以上を身体の負担が少ないオフポンプ冠動脈バイパス術で行っています。急性大動脈解離なども多く、院内や近隣の病院か

らの緊急手術依頼に直ちに対応できるように、24時間365日の受け入れ態勢を整えています。2例の手術にも同時対応可能です。

ハイブリッド手術室では循環器内科、小児科、放射線科、高度救命救急センターと協力して、定型の手術だけでなく、小切開／胸腔鏡下手術、経カテーテル大動脈弁置換術、ステントグラフトによる血管内治療などの低侵襲手術を積極的に実施しています。また、川崎病冠動脈瘤の小児にバイパス術を行う日本で数少ない施設でもあります。各科の連携が密であることが日本医科大学の大きな特徴です。そのため専門領域ごとに循環器内科、放射線科、小児科と同じ曜日に外来診療し、疾患毎に複数の診療科で合同カンファランスを開き、個々の患者さんに最もふさわしい治療を選択しています。



左：最新鋭の循環補助装置「Impella」を導入した重症心不全に対する冠動脈バイパス術

右：ハイブリッド手術室にて行う心血管低侵襲治療は年々増加している